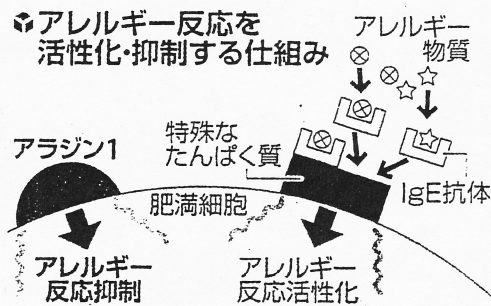


アレルギー抑える物質発見

花粉症やアトピー性皮膚炎などさまざまなアレルギー反応を抑え込むたんばく質を、渋谷彰・筑波大学教授らが世界で初めて発見した。このたんばく質は人間などの生体内にもともとあり、その働きを高める方法がわかれば、画期的なアレルギー治療薬につながる可能性がある。6日発行の専門誌ネイチャー・イムノロジーで発表した。



アレルギー反応を引き起こすヒスタミンなどの物質を生産して放出する「肥満細胞」の表面にあった。渋谷教授らはこれを人間とマウスからみつけ「アラジン」と命名した。その働きを調べたところ、肥満細胞の中で、ヒスタミンなどを放出させる信号の伝達

筑波大、世界初

花粉症、アトピー性皮膚炎……

「万能」治療薬へ期待

を妨げていることがわかった。アラジンが働かないマウスではアレルギー反応が激しく、アラジンの効果も確認した。

現在、アレルギー疾患

の治療には、放出されたヒスタミンなどの働きを抑える薬が使われている。渋谷教授は、「アラジンの働きを高める薬剤がわかれば、ヒスタミンなどの放出自体を抑え込める。ほとんどのアレルギー反応を根本から抑えられ、これまでよりはるかに有効な治療

ができる」と話している。

アレルギー反応 体内に入ってきた物質に、体を守る免疫機構が過剰に反応して起きる。花粉症やアレルギー性鼻炎、ハチに繰り返し刺されて起きるアナフィラキシーショックなどがある。「IgE抗体」に花粉やハチ毒などが結合し、それが特殊なたんばく質を介して肥満細胞を刺激して起きる。この反応は、もともと寄生虫を駆除するためのもの。強い毒性のあるヒスタミンなどを出すので、症状が激しい。